

デスクトップ仮想化ソリューション 導入事例

東京海上日動火災保険株式会社 様

約3万台の大規模デスクトップ仮想化環境の新OS移行
仮想化基盤の混在も伴う困難な作業を約半年で完遂

東京海上日動火災保険株式会社
IT企画部 次長
兼 IT予算グループリーダー
高橋 祐治 氏



東京海上日動システムズ株式会社
ITサービス第二本部
オープンアプリ基盤部 マネージャー
丹 洋之 氏



東京海上日動システムズ株式会社
ITサービス第二本部
オープンアプリ基盤部 デザイナー
丸山 雄大 氏



TOKIOMARINE
NICHIDO

社 名：東京海上日動火災保険株式会社

所 在 地：東京都千代田区丸の内1-2-1

資 本 金：1,019億円

総 資 産：9兆780億円

従業員数：17,125名

概 要：損害保険業（保険の引受、資産の運用）、業務
の代理・事務の代行、確定拠出年金の運営管
理業務、自動車損害賠償保障事業委託業務

U R L：http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

※2015年3月31日現在



事例のポイント

課題背景

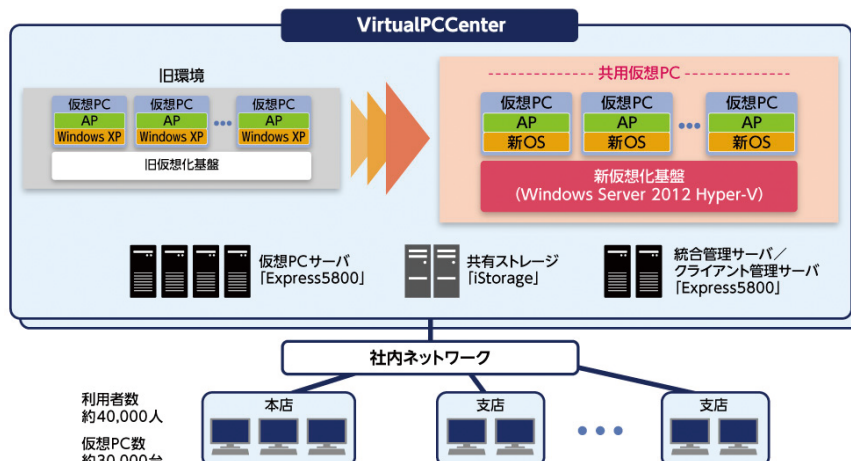
- Windows XPのサポート終了が迫り、デスクトップ仮想化環境における仮想PCのOSの移行が必要に
- より多くのリソースを消費する新OSを採用しつつも、従来のハードウェア資産をできるだけ有効活用したい
- 仮想化基盤の段階的な移行を行いつつ、途上で発生する基盤の混在環境を効率的に管理し、業務への影響を最小限に止めたい

成 果

- 仮想PC約3万台の最新OSへの移行を約半年で実現**
仮想PCのOSを最新のものに移行。大規模プロジェクトを短期間で遂行できた上、移行時のエンドユーザの負担や業務に与える影響を最小限にできた
- 既存資産の有効活用**
既存のハードウェアを有効活用しつつ、仮想化基盤を見直すことで同等の集約率を保ちながら仮想PCのOSを最新のものに移行することができた
- 移行時の管理負担を軽減**
仮想化基盤が異なる新旧環境の並行稼働、および効率的な管理を実現し、スムーズな移行を実現

導入ソリューション

●東京海上日動火災保険株式会社様のデスクトップ仮想化システムの移行イメージ



マイクロソフトの「Hyper-V」を新たに採用することで、新OSにリプレースしつつも、従来通りの集約率を実現。NECの「VirtualPCCenter」が移行途上における2つの仮想化環境の混在運用、統合管理のニーズに応えた

導入前の背景や課題

エンドユーザや業務への負担を 最小限に止め 移行プロジェクトを完遂したい

「お客様に“あんしん”をお届けし、選ばれ、成長し続ける会社」をビジョンに掲げる東京海上日動火災保険株式会社様。現在、「選ばれ方の変革」「働き方の変革」「変革し続ける良い社風」という3つの変革に挑戦し、持続的な成長を目指しています。

常に新たな変革に取り組む同社の姿勢は、IT戦

略にも表れています。

その典型例が、2009年に取り組んだデスクトップの仮想化です。当時、2万6000台もの規模でデスクトップ仮想化を大きなトラブルなく完遂した同社のプロジェクトは、先駆的な取り組みとして多くの注目を集めました。「セキュリティ強化、コスト削減はもちろん、東日本大震災時には、現地へ応援に出向いた別拠点の担当者が、普段通りの環境で業務を継続できたなど、様々な成果を得ることができ、システムも順調に稼働してき

ました」と同社の高橋祐治氏は語ります。

しかし、課題が浮上してきました。Windows XPのサポート終了が迫り、全ての仮想PCのOSのリプレースが必要になったのです。同社のデスクトップ仮想化環境の規模は、構築時よりさらに拡大しており、これほどの規模のシステムの移行は、非常に困難なプロジェクトとなります。「できるだけ、エンドユーザや業務への負担を最小限に止めながら移行プロジェクトを完遂する必要があります」と高橋氏は振り返ります。

選択のポイント

異なる仮想化環境も 意識することなく運用でき、 移行作業の負荷を軽減

同社が、この困難なプロジェクトのパートナーに選んだのがNECです。

「既存のデスクトップ仮想化もNECが構築したシステムであった上、これまでのやり取りの中で感じた技術力、困難な課題にも徹底的に向かい合う姿勢を評価していました」と東京海上日動システムズ株式会社の丹洋氏は語ります。

もちろん、提案の内容も選定のポイントとなりました。中でもNECのデスクトップ仮想化製品

「VirtualPCCenter (VPCC)」が異なる仮想化基盤を統合管理できる点は、大きな決め手となりました。

というのも、今回、同社は仮想化基盤を従来のものからマイクロソフト社の「Windows Server® 2012 Hyper-V®」(以下Hyper-V)に置き換える案を検討していたからです。

「Hyper-Vには『動的メモリ (Dynamic Memory)』という機能があり、仮想PCのメモリ消費量を動的に調節することができます。これを利用すれば、より多くのリソースを消費する新OSに移行しつつも、既存のハードウェアをできるだけ有効活用

できるのではと考えたのです」と東京海上日動システムズ株式会社の丸山雄大氏は語ります。

しかし、仮想化基盤の一斉切り替えは、事業継続の観点からさらに大きなリスクを伴うため、段階的な移行が現実的な選択となります。そうすると、移行期間中は、2つの仮想化環境を並行稼働させなければなりません。「それに対し、VPCCは、複数の仮想化基盤が混在していても統合管理が可能。ハイパーバイザーの違いを意識することなく、従来と同じコマンド/ツールによる運用が可能のため、移行期間中も運用管理負荷を最小に抑えることができます」と丹氏は語ります。

導入後の成果

万全の準備と プロジェクトマネジメントによって 移行作業を約半年で完了

移行作業は当初の予定通り、約半年で完了。Hyper-V、および新クライアントOSをベースとした、約4万人が利用する3万台規模のデスクトップ仮想化環境が実現しました。

VPCCによって、仮想化環境の混在環境を効率的に管理し、移行作業を段階的かつスムーズに行えたことで、業務への影響は、ほぼありませんでした。また、このVPCCの特長によって、仮想化基盤が変わっても運用方法を引き継ぐことができ、移行後も負荷の高まりなく運用を行うこ

とができています。

「大規模であることや仮想化基盤の変更、さらには約半年という期間など、厳しい条件のプロジェクトを完遂してくれたNECには、とても感謝しています。テスト環境や先行リリース環境で、アプリケーションのユーザビリティや性能への影響を検証したり、随時チューニングを施したりした上、仮想PCの構築を自動化するツールを用意するなど、NECは万全の準備を行ってくれました」と丸山氏は語ります。

ハードウェアの有効活用という点でも高い成果を上げています。

「環境の移動作業用のサーバやストレージ、ある

いはメモリなど、追加するリソースを最小限に抑えながら、同等の集約率を実現することができました。想定していた以上の成果です」と高橋氏は総括します。

今後、同社はデスクトップ仮想化のメリットをさらに最大化する施策を検討しています。例えば、ノートPCやスマートデバイスの活用も、その1つ。「多様なデバイスを有効活用して、現在取り組んでいる働き方の変革に役立てたいですね。こうした検討を行えるのも、適正なコストでデスクトップ仮想化環境をリプレースできたおかげです」と高橋氏は語ります。NECは、これからもそうした同社の変革を強力に支援していく構えです。

お問い合わせは、下記へ

NEC プラットフォームソリューション推進本部

E-mail: contact@pfsl.jp.nec.com

URL: <http://jpn.nec.com/solution/dtvsol>

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
●Windows、Windows Server、Hyper-Vは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
●本製品の輸出（非居住者への業務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

VEGETABLE
OIL INK

環境にやさしい植物油インキ
を使用しています。